

乾久美子

受賞教員インタビュー 第9回

被災地で取り組んだ「陸前高田のみんなの家」の共同設計の過程を展示した「Jumji」に、建築は、可能か」でヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展「金獅子賞」を受賞。



Photo by Hiroaki Horiguchi

プロセスが意味をもつ建築

日本では、以前より、地すべりや豪雨といった自然災害の頻度が増しており、多くの方が避難所や仮設住宅で過酷な生活を強いられることが当たり前になってきました。こう

いった問題にどのように対処していくべきかという意識の高まりが、建築家のあいだに芽生えていたところ。に東日本大震災がおきてしまった。そこで、伊東豊雄さん、隈研吾さん、妹島和世さん、内藤廣さん、山本理顕さんが、建築家に何ができるかと

いうことを模索していく目で「帰心の会」をつくり、その第一歩として「みんなの家」というプロジェクトが立ち上げられたのです。例えば、仮設住宅団地には簡易的な公民館が用意されることもありですが、大抵はプレファブの殺風景なもので、心に傷を負った方々が日常を取り戻す契機になる活動が生まれるような建物になっていない。個々の仮設住宅が簡易的なのは仕方がないとしても、せめて日常生活の近くに毎日通いたくなるような場所をつくれなにか、ということがプロジェクトの根底にあります。そうした思いから、仙台市宮城野区をはじめとする数カ所で、「みんなの家」の計画が行われていました。

そうした中で、伊東豊雄さんが

第28号 目次

02 受賞教員インタビュー 第9回

乾久美子

04 Seidai Gallery vol.8

島田文雄 青白磁栄螺文平皿

06 教員は語る 第20回

鈴木太朗×櫻田亮

09 受賞学生インタビュー 第11回

池尻貴尚 松木さや 久保雄太郎

12 TOPICS

音旬 映旬 美旬

20 卒業生に聞く。第7回

坂崎千春

22 研究室探訪 第7回

大学院映像研究科映画専攻

24 上野の寄り道 散歩道 第9回

近代文学散歩

26 上野の杜の波瀾万丈 第17回

サルナートの壁画

吉田千鶴子

28 展覧会&演奏会情報

法隆寺―折りとかたち

藝大プロジェクト2014

「シエイクスピアスと人との時代」シリーズ

30 NEWS 2013.08～2014.01

編集後記

ヴェネチア・ビエンナーレのコミッションナーのプロポーザルを提案することになり、新しい「みんなの家」をつくり、そのドキュメントを持って行くことを構想されたのです。また、それまで計画が進んでいた「みんなの家」とは違った仕組みとして、私も含めた若い世代の建築家のコラボレーションとすることを考えられました。藤本壮介さんと平田晃久さんと私がプランを練り、そして写真家の島山直哉さんが記録するというものです。

被災者の切実な声を聴く

このプロジェクトで伊東さんが重視されたのは、プロセスそのもので



陸前高田「みんなの家」外観 撮影：乾久美子建築設計事務所

す。建築家だけでなく、使う方々と一緒に建築をつくる。ことができないかということを考えようとした。さらに、個性を競い合うような建築家のあり方を考え直すために、異なる思想をもつ建築家がひとつの建築に取り組みすることを考えられたのです。

今回のような大災害を経験した方々とどういふふうにつきあっていたらよいのか、最初のうちは手探りでした。「陸前高田のみんなの家」ではまず、家を受け取ってくれる利用者探しから始めたのです。しかし、被災者の方々に「みんなの家を」と言ってもなかなか理解が得られない。何件の仮設住宅団地を巡る中で、実際に利用者になってくださる方が現われ、明るい声で「そういうものをつくってくれるならば、ぜひ皆で使いたい」と言われたのが大きな励みになりました。

設計の過程で、思想と目標を異にする三人の考え



陸前高田「みんなの家」1F内観 撮影：乾久美子建築設計事務所

が、ひとつのアイデアに収斂していかないという時期がありました。そこで、もう一度、現地の人に会って、改めて必要としているものを聴くことになったのです。果たして、困っているのはどんなことか、実際にどういふうに使うのかを聞くことができたのですが、その後の三人の協働作業はスムーズでした。被災した方々が訴える具体的で切実なニーズが三人の個性を超えて納得できるものであり、三人の思想や目標を越えて実現しなくてはならないものだと感じたからだと思います。その後の建設も大変でしたが「陸前高田のみんなの家」はなんとか竣工しました。

竣工後なのですが、こうした建物は持続的な運営を考えることが大切です。今でも連絡を取り合っていて、いろいろな相談にのるようにしています。

藝大通信
No.28
TOKYO GEIDAI
東京藝術大学広報誌
藝大通信第28号

編集発行

東京藝術大学藝大通信編集部

編集委員

松下計(美術学部デザイン科准教授・編集長)
八谷和彦(美術学部先端芸術表現科准教授)
吉田浩之(音楽学部声楽科教授)
鈴木純明(音楽学部作曲科准教授)
磯見俊裕(大学院映像研究科映画専攻教授)
大石泰(演奏芸術センター准教授)

アートディレクター

松下計

表紙デザイン

表紙撮影

撮影

堀口宏明

制作

永井文仁・塚田史子(美術学部附属写真センター)

株式会社 平凡社

発行日

平成二十六年三月十日

お問い合わせ先

東京藝術大学総務課
〒101-8744 東京都台東区上野公園12-1-8
電話 050-5555-1102
FAX 03-5681-7600
E-mail: tolawase@ml.geidai.ac.jp
URL: http://www.geidai.ac.jp/

乾久美子(いぬいくみこ)

准教授 | 美術学部建築科

一九六九年生まれ。一九九二年東京藝術大学美術学部建築科卒業。一九九六年エール大学大学院修士課程修了。青木淳建築計画事務所の勤務を経て、二〇〇〇年に乾久美子建築設計事務所を設立。「アパートメント」で二〇〇八年新建築賞、「スモールハウスH」で二〇一〇年東京建築士会住宅建築賞、「フラワーショップ」で二〇一〇年日本建築士会連合会賞優秀賞や二〇一〇年グッドデザイン賞、二〇一二年度JIA新人賞などを受賞。二〇一二年十月より現職。二〇一三年九月「陸前高田のみんなの家」(若手県陸前高田市)の設計過程を展示した「ここに、建築は、可能か?伊東豊雄、藤本壮介、平田晃久、島山直哉とともにヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展「金獅子賞」を受賞。